

# 日本に留学して

—日本の仏教と国民性について—

みなさん、おはようございます。韓国留学僧の李煥秀と申します。きょうはみなさんにお会いできたことをほんとうにうれしく存じます。

善光寺のご住職様が「海外留学僧派遣育英会」の理事長として世界仏教文化交流に大きな役割を担っていらつしやるのは私どもの韓国仏教界にも広く知られておりまして、ご住職様の大きなお力添えに深い感謝の気持ちを申しあげる次第でございます。

私は今、東洋大学において華嚴経入法界品を

中心にした仏教文学を勉強しております。将来は学者のような態度より詩人のような態度で生きて行きたいと思っております。

きょうは私が一九八九年の四月、留学のためにソウルから東京へやってまいりましてから私が見て来た『日本の仏教と国民性』についてお話を申しあげたいと思います。先ず、私が日本に来て経験した大事なことが三つございます。そのことからお話を申しあげたいと思います。

一つ目は大本山永平寺に入りまして日本の禪

東洋大学文学部  
印度哲学科三年

李<sup>イ</sup>

煥<sup>ズウン</sup>

秀<sup>スウ</sup>

(韓国曹溪宗)

宗のお坊さん達と一緒に修行をやってみまして日本の禅宗の修行方式を理解することができたということでございます。すべてのお坊さんの方々が厳しい生活の中で真面目に修行していらつしやるのを見まして深い感銘を受けました。

そして、大法良典単頭老師にお会いしまして道元禪師と永平寺の歴史について詳しく教えて頂き、非常に良い勉強であったと思います。西暦五五二年、韓国から日本に仏教が伝来されて以来、日本仏教史には立派な和尚の方々が出ていらつしやり、日本民族の精神的支えとなつて来たと思います。その中でも道元和尚は日本民族の魂として尊敬されていると思います。

韓国仏教と日本仏教が異なつたところはどこかといえますと韓国仏教は自分の宗派の祖師より仏教の教祖であるお釈迦様を崇めている反面、日本仏教はお釈迦様より自分の宗派の祖師をいつそう崇めているのではないかということ

でございます。そして、韓国禅宗と日本禅宗の修行方式で異なつたところは韓国の禅堂は作務があまりなく毎日坐禅を十時間以上続けておりますが、日本の禅堂は坐禅時間が短く作務時間が大変長いということでございます。

二つ目は日本の△労働者の世界▽を理解するために千葉県にあります清水建設の建設現場に入りまして日本の労働者達と一緒に一週間労働をやってみたことでございます。

そこでは二人が一組となつて鉄板を積み上げる作業を担当しました。私は三神さんという方と一組になりました。白髪のかなり年輩の方でお見かけしたところでは六十歳を越えておられるようございました。仕事中、彼は全然休まず、汗を流しながら一生懸命に働いておられます、その姿を見まして人生はいつもあのように勤勉に生きて行かなければならないという大きな人生の教訓を得ました。華嚴経入法界品の

中で善財童子が仏法を求めするために五十三人の善知識を尋ねます。ここで問題はその五十三人の善知識の方々みんながお坊さんではなかったということとでございませう。その中にはお坊さんをはじめこの世の中で生きて行くすべての人間が入っています、これは仏法がお経の中にだけあるのではなくこの世の中のすべての人生の姿が即ち仏法であるという意味だと思ひ、あの白髪の労働者は私にとって人生のすばらしい先生だったと思ひます。

『正法眼蔵随聞記』の中で述べられている典座教訓が道元禪師に大きな衝撃をあたえたのと同じような体験であつたのではないかと思ひ、人生をいつも勤勉に生きて行けという大事な教えでございませう。

三つ目は少数民族の人権と差別問題を考えるために東京から船に乗つて北海道へ行き、二風谷というアイヌ民族が二千五百人ぐらい住んで

いる村に入つて十日間アイヌ人達と一緒に生活してアイヌの言語と文化・歴史を勉強してみました。アイヌ人の顔は日本人とは全然違ひ、多分ロシア人と似ているのではないかと思われました。そして、みんな日本語で話していましたが、発音が日本人とは全然違ひました。そこで私は萱野茂先生というアイヌの民族指導者にお会いしまして、アイヌの文化と歴史についていろいろ教えて頂きました。アイヌは日本列島の原住民として日本民族よりもっと長い歴史をもつていまして別の言語と別の文化と別の歴史をもつ全然別の民族であることがよくわかりました。

日本のすべての方々を知っているかはわかりませんがアイヌ人達は日本に対して被害者意識を強くもつていました。明治時代に日本が北海道のアイヌ民族の土地を侵略し、自分の国にしたことによつてアイヌ人は日本の国民となりま

したが社会の中でアイヌ人に対していろいろな差別が行われていると聞きました。この差別は法律上はまったくないのであり、ただ精神的な差別を意味します。今、北海道には三万人ぐらのアイヌ人が住んでいます。彼らは川での猟で生計を立てている人々が多いです。この前、日本人達がその川を取り上げてしまった事件が起こりましてアイヌ人達が訴訟をおこしたことがあります。少数民族の生計の基盤を取り上げてしまうことは世界的な経済大国であることを自慢している日本としてはちょっと遠慮した方がいいのではないかと思います。

このあいだ、日中国交樹立二十年を迎えてNHKの取材班が中国に入り、中国人達に「日本人の印象はどうか」と聞いた結果、多くの中国人達が「日本人は礼儀正しいが度量が狭い」と答えていました。この問題についてちょっと考えてみたいと思います。留学生にとっては、自

分自身の学問の研究が大事なのですがそれに劣らず、その国の歴史と文化・民族性を理解することも非常に大事なことではないかと思えます。

私が日本に来て最も印象深かったのは日本人の親切なところと礼儀正しいところであり、これは日本民族が昔から勤勉に、誠実に生きて来たその結果だと思えます。お店の店員、区役所の公務員、火葬場の職員、タクシーの運転手など、ほとんどの社会人の方々が親切にしてくださいます。大学の日本事情の授業で先生が「日本の経済が発展した理由にはいろいろあるだろうが、最も大きな理由は一九五〇年の朝鮮戦争のためであり、これを考えると日本は韓国に対して深く感謝しなければならない」とおっしゃいました。それを聞いて私は朝鮮戦争とともに、日本国民の勤勉性があったため日本の経済が発展したのだと思えました。

そして、日本人は他人より自分の利益を特に重視する性格が強い。ため多くの外国人が「日本人は度量が狭い。理解する心が無い。心が狭い。」というふうにかんがえてはならないかと思ひます。今、日本で行われている外国人差別の問題は、日本人より性格が荒い外人と、その荒い性格が全然理解できず全ての外国人から指紋を取つてゐる日本人の両方に責任があると思ひます。日本人の方々の前で大變失礼なお話でございますが、同じ国民でありますアイヌ人に対しての差別及び偏見意識を捨てて、少数民族の人権を尊重しなければなりません。多数民族は少数民族を尊重することが国際社会の倫理を確立する最も大事なことだと思ひます。日本の国民の意識の中にアイヌ人に対する偏見意識が残つてゐる限り、外国人差別の問題は絶対に解決されないと思ひます。

日本人のアイヌ人や外国人に対する差別はア

メリカ人の人種差別の問題とはその概念と性格が全然違ひます。

物質文明の社会の中で本来の自己を失つてしまつたまま生きて行く現代人を本来の崇高な人間性で回復させるのが今日のすべての宗教家に与えられた大切な思想的課題だと思ひます。私が一番もつていたい哲学があるとしたら、それは縁起説による調和の哲学でございます。J・P・サルトルのアンガジュマン理論も縁起説の現代的解釈だと思ひます。

私は日本仏教がお釈迦様の教えを社会の人々に広く知らせると同時に日本社会の差別問題を解決するための役割を果たすことを望んでおります。

私は今年八月、韓国の東海岸のウルルンドという小島に行き、二十五人ぐらいの観光客と一緒に小船に乗つて島の周囲を回りました。

その日は風が強く、波が高くなりましたして船が

物凄く揺れ、一緒に乗っていた人々はおそらく事故が起ころるのではないかと思ひ、恐れておりましたが船長は全然恐れず平気で航海を続けておりました。船長の仕事をじっくり見ていますと、彼は波の性格がよくわかつており、波を見ながら速力をあげたり下げたりしながら航海を続けているのがわかりました。

私は船長のその姿を見て事故は起こらないと確信を抱くようになりました。

有能な航海者は風と波をいつも利用します。

有能な人生の航海者は苦難と逆境をいつも利用します。人間は一輪の花のような存在であると思ひます。自分自身をもっときれいに、もっと美しく表現しようとするからです。

私が外国に来て留学をしているのも、詩を書いて行きたいからかも美しい一輪の花として生きて行きたいからかも知れません。

韓国のある偉い禅師のお話の中に、

『山は山なり、水は水なり。』というお言葉がございます。これは公案としていろんな解釈ができるでしょうが、私はこういうふうと考えてみました。

教育の専門家は教師であり、政治の専門家は政治家であり、学問の研究の専門家は学者であり、労働の専門家は労働者であり、農事の専門家は農夫であり、航海の専門家は船長であり、修行して衆生を濟度する専門家は坊さんであります。

山は山であり、水は水であります。

一切衆生はみんなが自分の分野の専門家であります。我々はみんな自分の分野の専門家であるのだから自分の仕事に使命感をもつて堂々と生きて行かなければならないと思ひます。山は山であり、水は水であります。

ご静聴、どうもありがとうございます。